

三心を磨く

学校だより No. 8
令和8年1月22日(木)発行
須坂市立東中学校
文責：(教頭)
<http://www.azuma-school.ed.jp/>

3学期始業式 校長講話より

新年明けましておめでとうございます。

今年は午(うま)年。とくに丙午(ひのえうま)という年です。昔の日本の暦にある年の名前の一つで、丙午は60年に1回巡ってくるのだそうです。

「1年の計は元旦にあり」

2026年の自分のライフプランを立てましたか?自分なりの目標や、1年の見通しをもって、1日1日を有意義に、充実させていけたらよいですね。さて、2025年度の3学期が始まります。この学期は次年度の0学期とも言われます。つまり「まとめ」と「準備」を並列して進めていく学期です。3学期は登校日数の短い学期ですが、節目として重要な意味をもつ学期です。一人ひとり、良い締めくくりと次への繋ぎ(つなぎ)ができるよう、意識して学校生活に取り組みしましょう。

「静慮せよ 道は峻厳である」



建築家

ブルーノ・タウト

1880年5月4日 - 1938年12月24日

1933年、ナチス政権下のドイツから離れたいと思っていたとき、日本の建築団体からの招聘の話があり来日。3年半滞在した

ところで、私は元旦に書き初めをしました。この言葉は、ドイツの建築家ブルーノ・タウトという人が日本に滞在している間に、「自分で深く考えること」や「日本の美しさを大切に思う気持ち」をこめて、よく使っていた言葉として知られています。

「静慮せよ」の意味は、「心を静かにして深く考えなさい」「落ち着いてよく見つめなさい」です。

「道は峻厳である」は、「進むべき道(生き方・目標実現への道、またそのための練習や実践、知識を得るための勉強など)は、厳しく険しいものだ」ということです。

1933年(昭和8年)、タウトさんは、ナチス政権下にある故郷ドイツから離れたいと思っている所へ、丁度日本の建築団体から招聘の話があり、日本に3年半ほど滞在しました。来日した翌日京都にある桂離宮に案内されたとき、日本の伝統的な美意識と自然との調和の取れた建築・庭園の構成に感動し「泣きたくなるほど美しい」



桂離宮

と日記に記しました。建物と庭園が一体となり、互いの関係性を尊重して構成されている点に、日本人の深い精神性を感じ取りました。

話は少し飛びますが、現在、東京にある新国立競技場は皆さんよく知っていますね。世界的に有名な建築家隈研吾さんの設計によるものですが、彼はタウトさんに憧

建築家
隈 研吾

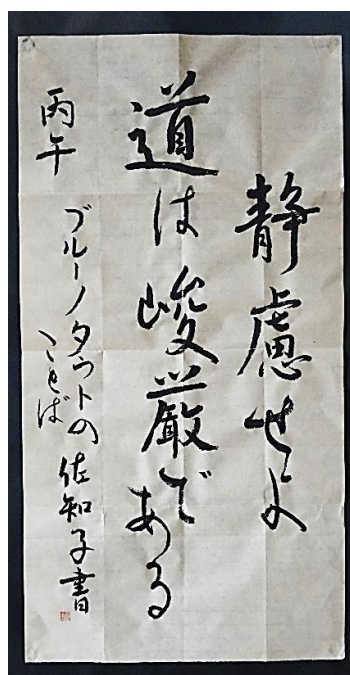


れ、タウトさんの建築にとっても影響を受けた一人です。きっかけは父がくれたタウトさんがデザインした木箱。小さい頃はよく分かりませんでした。大学で建築学を学ぶ中で、この木箱、そして木箱を作ったタウトさんに魅了されていきました。隈さんがタウトさんの考え方で一番好きなのは「関係の中に豊かさがある」という考え方だそうです。自然環境との関係、その社会（コミュニティ）との関係。「関係の中で建築を作ること」隈さんは、これをタウトさんから学んだと言っています。

桂離宮は、いわゆる宮殿です。英語では palace (パレス) といいます。宮殿は王族や皇族など君主とその一族が居住する壮麗な御殿のことです。パレスというとベルサイユ宮殿のような建物やきらびやかな内装の部屋、左右対称に作られた庭をイメージします。建築家であるタウトさんは、まず桂離宮の部屋（和室）を見て、畳とふすまと障子と壁と天井しかない簡素な作りに驚きます。ところがその畳に座って庭を見た時、タウトさんは「そうか、こういうことか」と衝撃を受けました。簡素で飾りも何もない部屋から見える庭の景色が建物の一部のように溶け込んでいる。建築そのものは簡素。しかし、庭との関係性が豊かなことにタウトさんは気付きました。建物、池、樹木や石など全てのものの調和。



タウトさんは「それぞれが独立しながらも、相互関係を築いていること」を日本の建築に見出しました。日本人の美に対する感性、美を追求する姿勢・美しさとは何かという、日本人の考え方に触れた瞬間でした。それから日本のあちこちを歩き回って、家屋を見たりその地域に住む人々と出会ったりして、日本を感じていきました。



宮下校長先生 揮毫

「静慮せよ 道は峻厳である」とタウトさんがつぶやいたのは、日本で目にしたものの、それをじっくりと心を落ち着けてしっかり見ていると、初め見えなかったものに次々と気が付くことがあり、さらに深く思いを巡らせることで、自分が気付いたことの中に、直接は見えない、そこに貫かれている日本人の考えや思い、心を感じとる体験をしていたのではないかと想像します。見えないものが見えてくればくるほど、「極めること」への楽しさを感じるのではないのでしょうか。

そしてタウトさんは、本を書いて、日本の素晴らしさ、日本の美しさを、日本人に気付かせてくれました。日本文化の価値が外国人から伝わって、再び日本人が自分たちの価値に気付いて、改めて、隈さん

のように、日本文化を進化、発展させていく、おもしろいですね。

またタウトさんは、桂離宮の部屋を見た時、おそらく比較したのは自国ドイツの宮殿だと思っています。違いがあることを知ることによって、自分の国の宮殿がどのようなものであるのかに気付くということです。私たちも、自国日本のことを知るには、日本の外に出て、実際に自分の目で見て感じてくるとわかります。良い所も悪い所も見えるかもしれませんが、自国を客観視できていることで、より正確な判断や考えが生まれるのだと思います。同様に、自分のことを知るには、色々な考え方、趣味嗜好の人たちの中に身を置くことではないでしょうか。むやみに他国や他人を羨むということだけでなく、それぞれが独立しつつ互いに調和を図る世界を作るために、「自他を深く知る」ということは大切な作業であると思います。

ものごとは深いです。よく見つけ、落ち着いて考えてみましょう。今日は90年前に日本で暮らした経験をもつ、ドイツの建築家、ブルーノ・タウトさんのお話を紹介しました。

3学期への抱負 代表生徒の発表より

<1年1組 さん 3学期の決意>

私が3学期に頑張りたいことは二つあります。

一つ目は勉強です。2学期は宿題をあまり提出できなかつたり、時々授業中、友達と話してしまつたりして、授業の内容や先生の話聞き逃して、なにをすればいいのかがわからなくなつた時があり、校内テストの点数もあまり納得のいかない結果で、ちょっと勉強が足りてないのかな？と少し自覚をして、3学期は自分なりに頑張ろう！と思いました。

しかも、3学期が終わつたらもう2年生なので来年度2年生になつてもしっかりと授業についていけるようにしていきたいです。1、2学期はあまり宿題が出せなかつたので、3学期は宿題をしっかりと出して、宿題を出すのが当たり前になるようにして、今までの復習とかもし、わからないところがあまりないように勉強や宿題を頑張りたいです。

二つ目は部活です。2学期はラリーがたくさん続いたらうれしくて気が緩んでしまつて、ミスをしたり、試合形式で練習をするときも集中力が切れて、普段はミスをしないボールをミスしたり、疲れてミスをすることがあったので、集中力を高めたり、体力を上げたりして、頑張っていきたいです。私は卓球部の新部長になり、部員が1年生の2人のみという、人数の少ない部活ですが、来年の1年生に、楽しそうな部活だな。と思つてもらえるような卓球部にして、挑戦という言葉

を大事にし、練習もたくさんして、試合などでも活躍できるように頑張りたいです。さらに、来年度から休日の部活動が地域クラブに完全移行する節目の年なので、今までの歴史に幕を下ろすため、しっかりと締めて終わりたいので練習にしっかりと集中し、決めた目標を必ず有言実行していきたいです。

<2年1組 さん 3学期に頑張りたいこと>

僕は3学期に頑張りたいことが二つあります。

一つ目は勉強面です。僕は二学期テストであまりいい点数が取れませんでした。特に自分の苦手教科である数学の点数が低かつたので、3学期は受験対策問題集で自分の苦手なところを復習して、いい点数をとれるように毎日努力していきたいです。また、自分の得意な教科もさらに伸ばしていきたいように頑張っていきたいです。

もうすぐ3年生になり、受験生としての1年が始まります。苦手な教科では、わからないところをそのままにせず、しっかりと身につけられるように、毎日復習し、勉強する習慣をつけていきたいです。また2学期は家庭学習の時間が少かつたので、3学期は勉強への取り組み方や勉強時間を改善して、点数をあげられるようにしたいです。

二つ目の頑張りたいことは生徒会です。自分は生徒会役員になり、これから忙しくなっていくと思うので、しっかり予定を立てて進めていくことを大事にしていきたいと思います。委員会をまとめていく立場にもなり、学校全体の活動を支えていくので、忙しい中でも、一個一個の活動を丁寧に行っていきたいです。日々の当番活動や、特別活動、本部会、そして3年生を送る会と3学期は生徒会の活動だけでも盛りだくさんなので、自分で時間の使い方も工夫できるようにしていきたいです。

最後に短い3学期ですが、学習面や生徒会、さらに4月には修学旅行もあるので、その準備などとても忙しい時期になりますが、一日一日を大切にしながら毎日コツコツと頑張っていきたいです。

<3年2組 さん 3学期の目標>

いよいよ中学校生活最後の3学期が始まりました。この3学期は私たち三年生にとって、単なる学期の最後ではなく、9年間の義務教育の集大成であり、新たな道に進むための大切な準備期間です。私はこの3学期を有意義に過ごすために、学習、生活、感謝の三つを軸に目標を掲げます。

第一に、学習面では、「第一希望校の合格」と「継続的な学習」を目標とします。目標を達成するために、この冬休みは一日の学習時間を最低6時間行うと決め、達成することができました。また、特に苦手としてきた数学は毎日三問は必ず解き、応用問題にも対応できるようになりました。このことにより、継続的な学習を達成できるという自信が持てました。

第二に生活面では「規則正しい生活」を目標とします。入試本番の日に脳がきちんと働くように、夜型の生活を朝型の生活に変えました。体調面にも気を付け、栄養バランスを考えた食事や手洗いうがいを徹底していきたいと考えています。

第三に感謝の面では「感謝を力に変える」を目標とします。受験期はストレスがかかりやすい時期ですが、身の回りの方への感謝を忘れません。毎日朝ごはんなどを準備してくれる家族や先生方からの暖かい応援。これらを当たり前と思わず、第一希望校合格という最大の恩返しをするための原動力とします。

3学期はとても短い期間です。卒業式に「3年間やり切った！」と思えるように一日一日を全力で過ごします。

生徒用端末が新しくなりました

須坂市から貸与されている生徒用の一人一台端末が新しくなりました。保護者の皆さまには、端末を大事に持ち運ぶための手助け（肩掛け）バックをご用意いただき、ありがとうございました。端末が新しくなったことを機に、ご家庭でも、下記についてお子さんと共有していただき、ご協力をよろしくお願いいたします。

<生徒用タブレット利用のきまり> *抜粋

1 充電は家で行うこと

◎須坂市の貸与規定により、家での充電をお願いします。

2 タブレットの使用目的は学習のため、私的に利用しないこと

◎タブレットは、学習以外に使用できません。家庭においても同様です。

3 タブレットの貸し借りはしない

◎保管、管理は各自で責任をもって行う。

4 情報モラルを守り、他者への思いやりをもって使うこと

◎特に他人の目に触れる文章、言葉、画像、動画等について十分に配慮しましょう。肖像権の侵害や、悪口や相手が嫌がる書き込みをして人を傷つけることは絶対にしてはいけません。

5 タブレットを破損しないように大切に使うこと

***生徒用タブレットは、大前提として学習（生徒会）に関わることにのみ利用することになって
います。きまりを守れない場合は、須坂市の規定により貸与できません。**